

平成 19 年度 博士課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

「脳性マヒ児に対する作業療法におけるクリニカルリーズニング区分の研究」

学位の種類： 博士（保健科学）

保健科学研究科 保健科学専攻 地域保健科学分野

学籍番号 D046414

氏名：長谷 龍太郎

（指導教員名： 山田 孝 ）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

【目的】作業療法におけるクリニカルリーズニングは、介入を計画し、実施し、反映する際の思考過程である。本研究の目的は、脳性マヒ児に対する作業療法実践に対して参与観察型の質的研究を利用することで、作業療法におけるクリニカルリーズニングの活用と内容を明らかにすることである。

【方法】対象は、脳性マヒ児を治療している作業療法士で、臨床経験 4 年未満の者と、10 年以上の者各 5 名であった。情報収集は、治療環境の観察、調査開始時に作業療法士と行われる半構成的面接、観察後に実施された作業療法士との半構成的面接で行われた。

【結果と考察】面接データは、作業療法士との半構成的面接から得られたもので、各作業療法士の判断とその理由を示す様々な表現内容が含まれていた。内容は逐語録から抽出された治療介入上の推論を記述し類型化したものである。類型化にあたっては質的研究方法で用いられる継続的比較（constant comparison）を用いた。

1) 治療原則や作業療法で用いる機材の選択の判断

疾患に特有な現象や反応に起因する治療的判断や使用機材の決定に関するもので、科学的根拠として重視されており、科学的リーズニングとして分類されたものと一致していた。

2) 対象児の性格や将来に対する考慮による判断

対象児の個人的な性格や将来に関する判断であり、慢性疾患とともに生きる対象者を支援する作業療法上の重要な判断であり、叙述的リーズニングとして分類されたものと一致していた。

3) 作業療法の具体的な進行に関する判断

作業療法場面では、器具の準備、順調な作業の展開、場所や遊具の選択等に対する判断が行なわれている。これは作業療法の具体的な進行に関する判断であり、実際のリーズニングとして分類されたものと一致していた。

4) 作業療法と作業療法士の正当性に関する判断

作業療法と作業療法士の治療の正当性に関する判断と迷いであり、作業療法士が対象児への介入の正当性に疑問を持ち、自らの治療技能を内省する過程で現れ、倫理的リーズニングと分類されたものと一致していた。

5) 判断の組み合わせと作業療法の場面に伴う「楽しい」雰囲気

対象児に作業療法を楽しい雰囲気で経験させたいという判断が抽出され、新たに「雰囲氣的リーズニング」として区分された。

【結論】脳性マヒ児に対する作業療法のクリニカルリーズニングの臨床研究によって、先行研究の示したリーズニング区分と類似した区分を抽出できた。新たに臨床場面の楽しい雰囲気の維持が、作業遂行を継続し発達を促し、作業療法を効果的に展開する上で重要で新たなリーズニングであることが示された。